

がん相談業務 (院内におけるピアサポート)

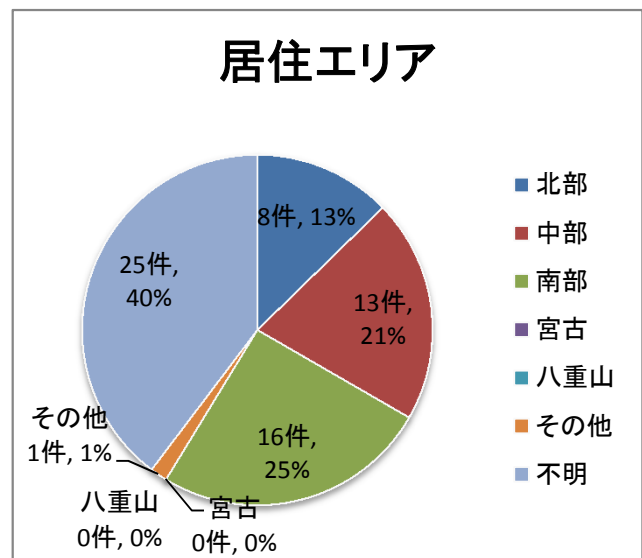
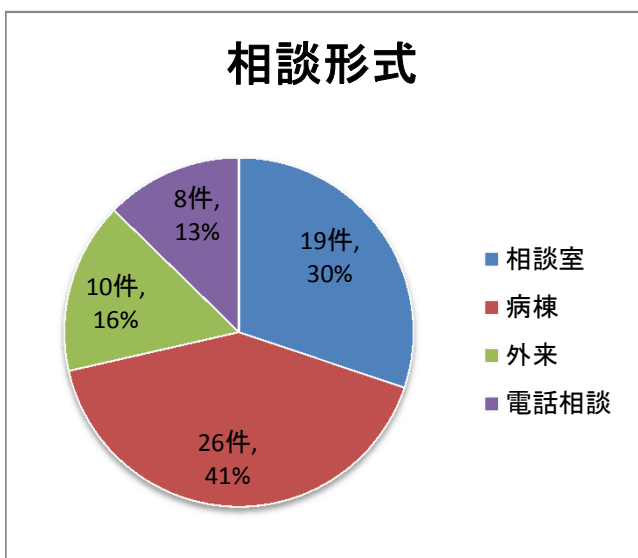
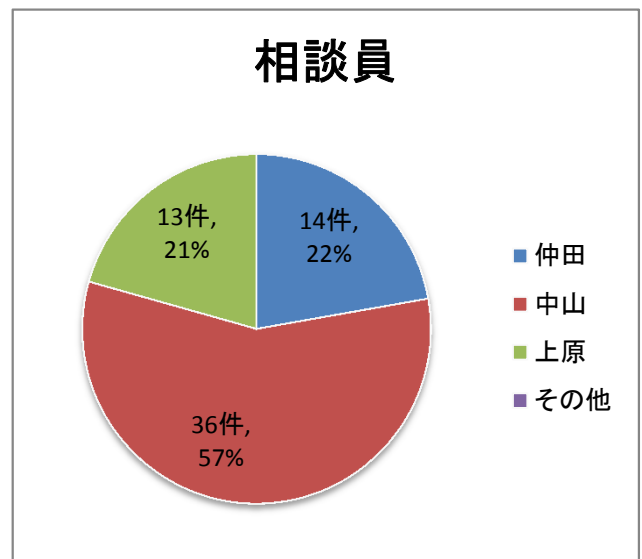
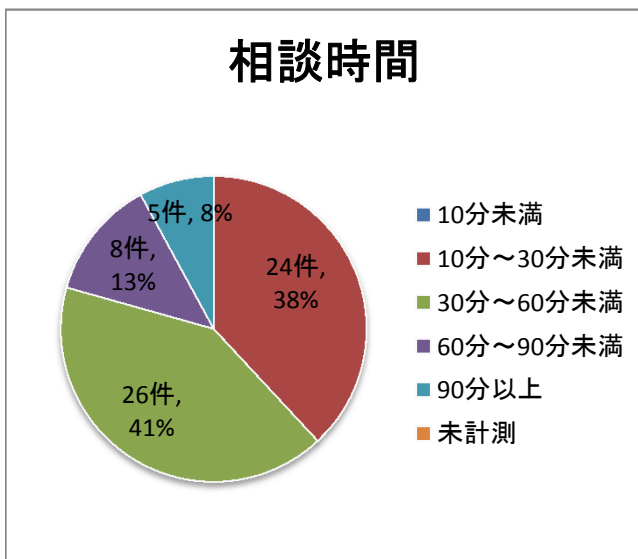
相談記録シート集計報告

実施期間：平成27年7月1日～平成27年9月30日

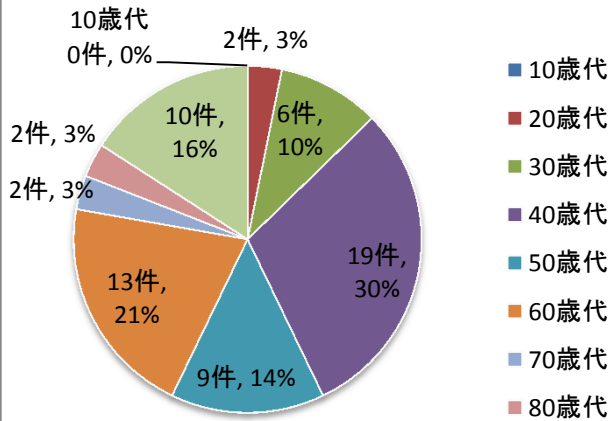
がん相談業務（院内におけるピアサポート）集計結果

■ 調査対象期間 平成27年7月1日～平成27年9月30日
 ■ 調査件数 63 件

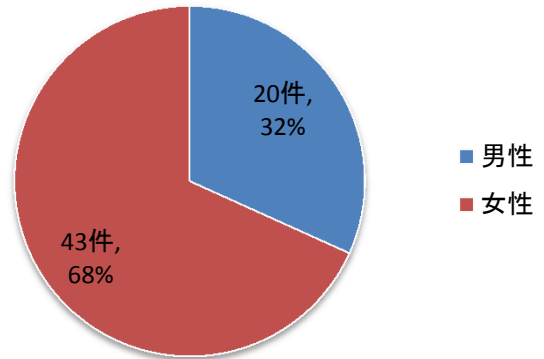
相談月	件数
7月	21
8月	22
9月	20
合計	63



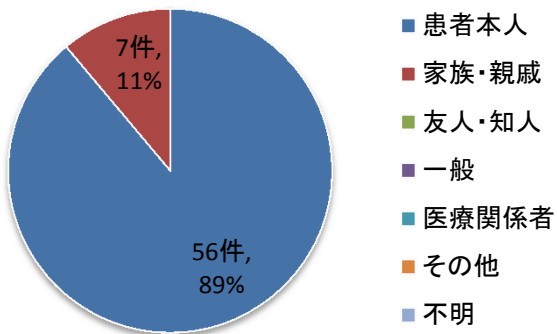
相談者の年代



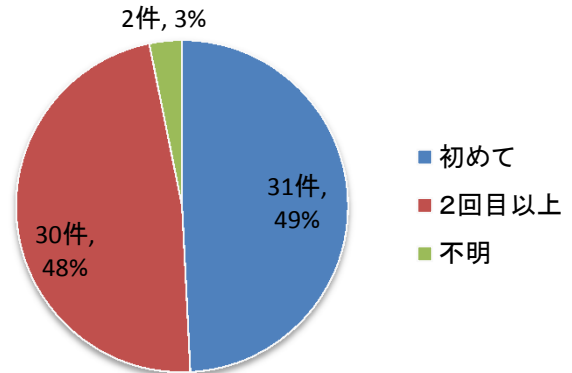
相談者の性別



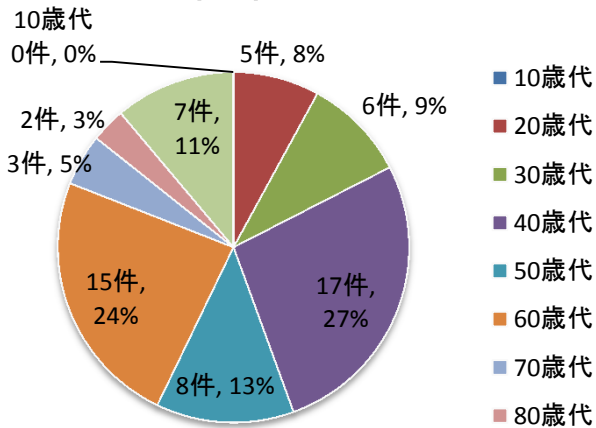
相談者のカテゴリー



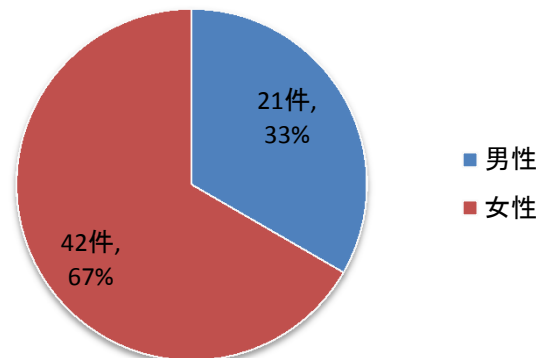
相談者の利用回数



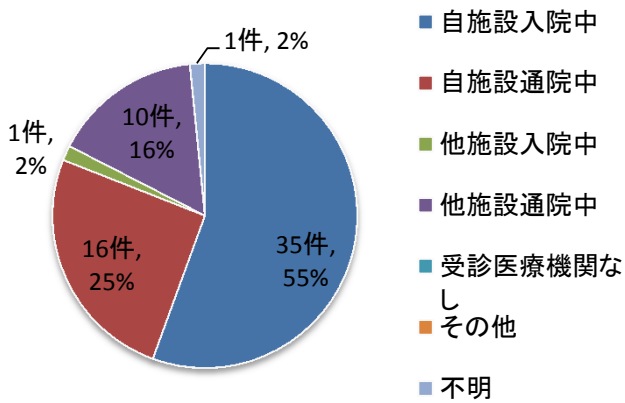
患者本人の年代



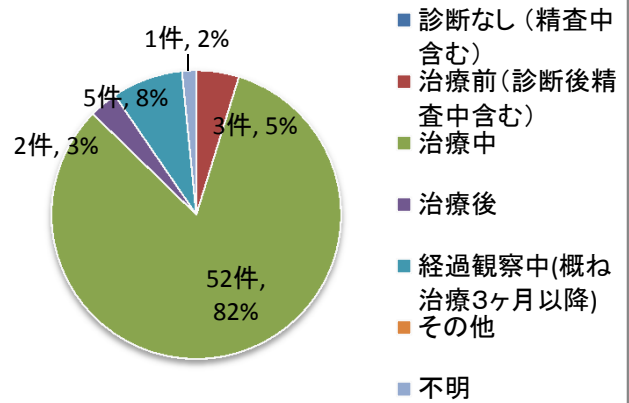
患者本人の性別



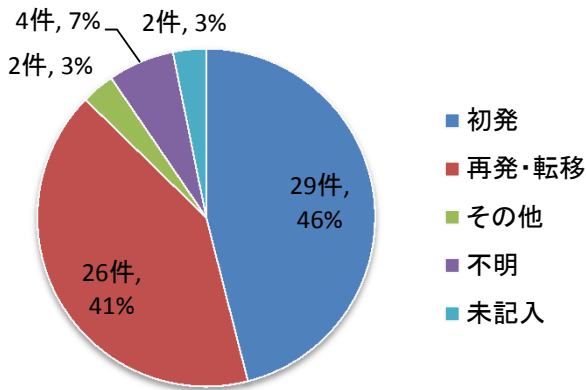
受診状況



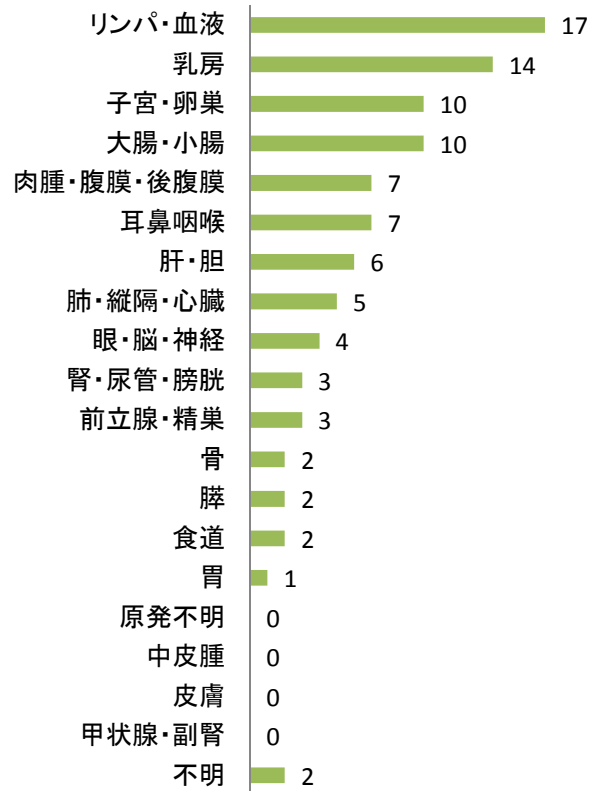
現在の治療状況



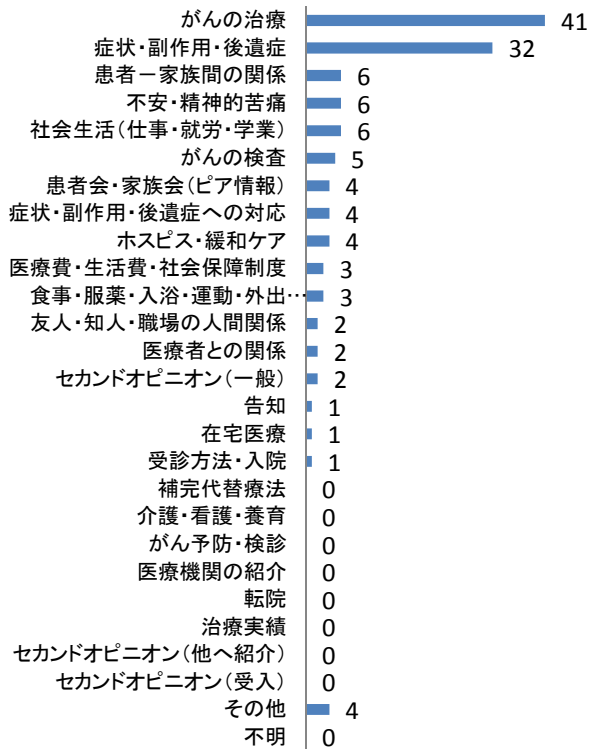
がんの状況



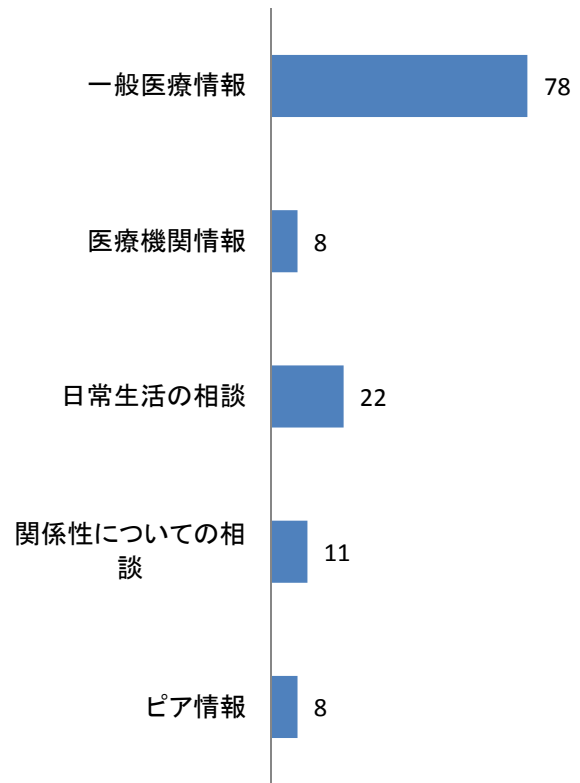
がんの部位



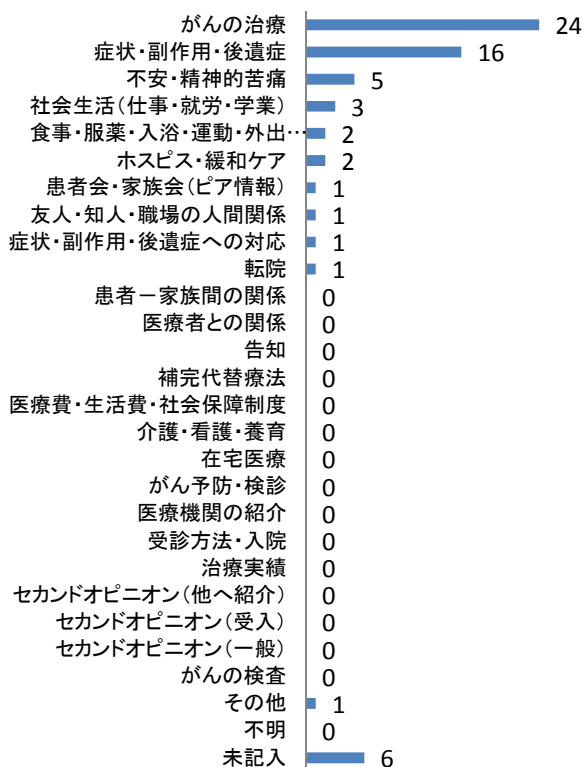
相談内容 (実施したものすべて)



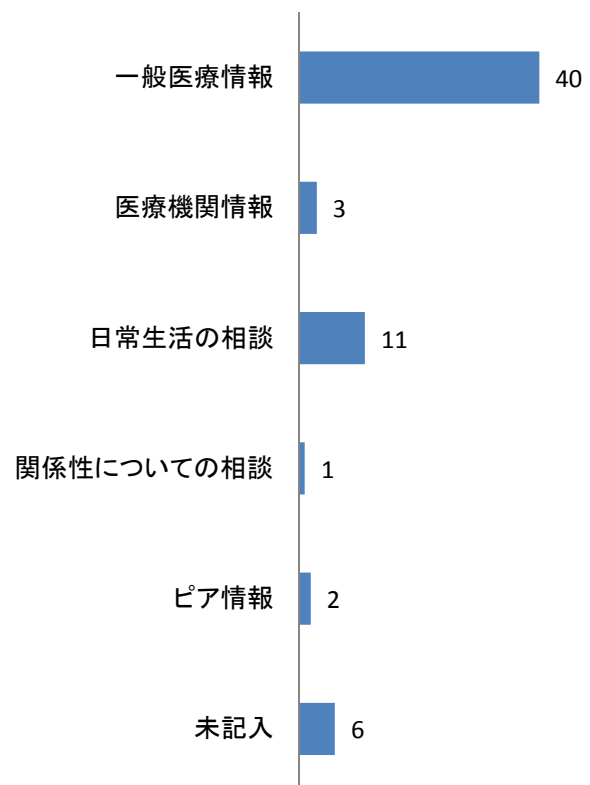
相談内容 (実施したものすべて・大項目別)



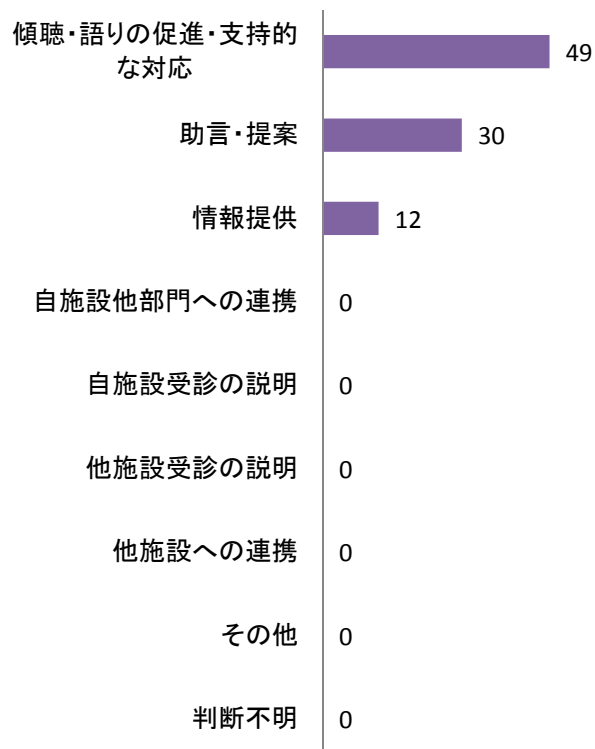
相談内容 (最も比重の高いもの)



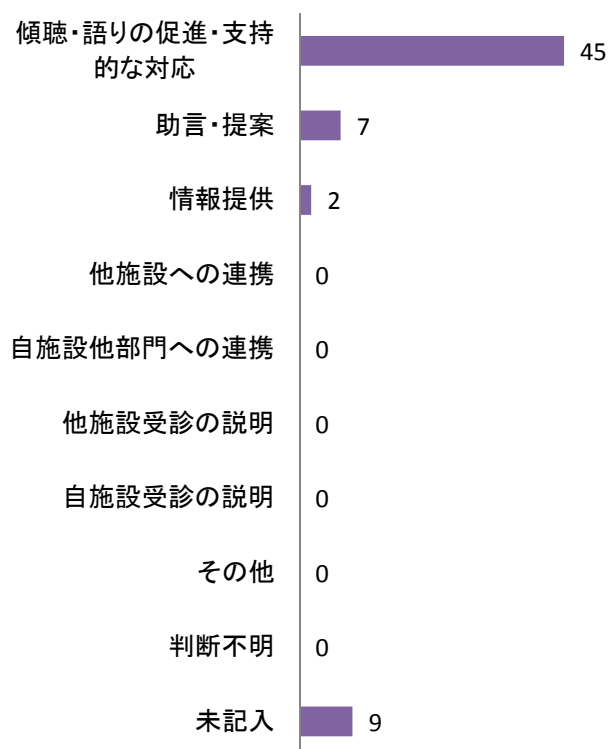
相談内容 (最も比重の高いもの・大項目別)



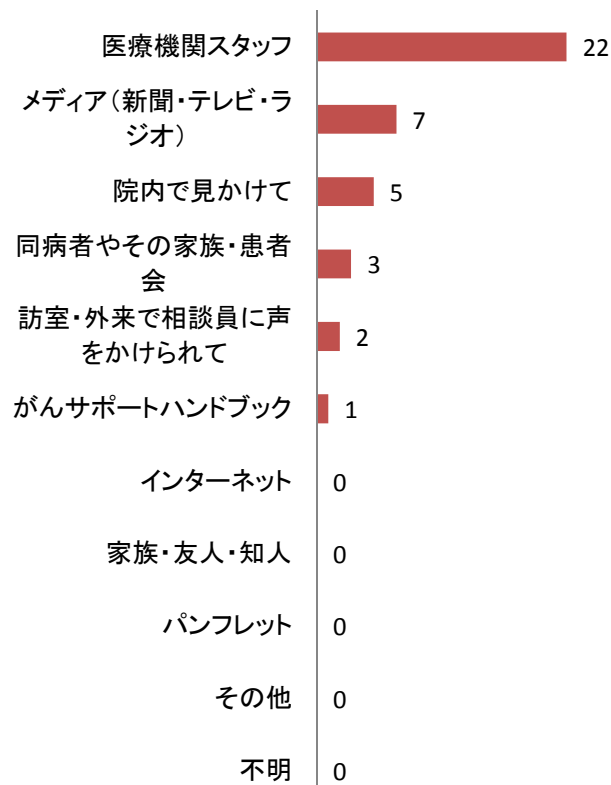
対応内容 (実施したもののすべて)



対応内容 (最も比重の高いもの)



認知経路



第3回 がんピアサロン in ジュンク堂

開催報告

実施日：平成27年9月6日（日）実施

沖縄県地域統括相談支援センター 主催

開催概要

1. 名称 第3回 がんピアサロン in ジュンク堂
2. 日時 平成27年9月6日(日) 14:00~16:00
3. 場所 ジュンク堂書店那覇店 地下1階
4. 対象 がん患者、家族、遺族、医療関係者、関心のある方
5. 参加費 無料
6. 目的
 - (1) 沖縄県地域統括相談支援センターの普及広報
沖縄県地域統括相談支援センターの周知を図るとともに、「ピアサポート活動」等のがん患者支援に関する普及を図り、今現在がんに関わりのない方とがんとを結び付け、自分がかんに罹患した際にどのような支援体制があるのか、がん患者がどのような活動を行っているのかを知ってもらう。
 - (2) がん患者や家族の不安軽減
当事者同士でがんに対する不安や悩みを分かち合い、情報を交換し合うことで病気に対する不安軽減につなげる。
 - (3) ピアサポーターの質の向上
サロンの進行役を通して対応経験を重ねることでピアサポーターとしての資質を高める。また、振り返り作業をすることで客観的に自分の対応を評価できるようになる。
7. 主催 沖縄県地域統括相談支援センター
8. 共催 沖縄県がん患者等支援事業

タイムスケジュール

開始	終了	所要時間	内容	詳細
12:30	13:30	60分	統括スタッフ・設営業者会場入り 会場設営	①パーテーション・テーブル・イスの配置 ②情報コーナー（冊子・パネル設置）
13:30	13:50	20分	大城松健さん・ピアサポーター・増田先生会場入り 事前打ち合わせ	①スタッフ顔合わせ ②サロンの流れ確認 ③ピアサポート活動の注意点 ④その他
14:00	14:05	5分	開会のあいさつ 沖縄県地域統括相談支援センター長 増田昌人	
14:05	14:10	5分	サロンの説明 沖縄県地域統括相談支援センター事務員 安里君代	①サロンの目的・ルール説明 ②アンケートのお願い ③その他
14:10	14:40	30分	ギター・ミニコンサート&お話 ギタリスト： ペトロ・ショーケンさん	演奏曲目 ・アルハンブラの思い出 ・禁じられた遊び ・エストレリータ 他
14:40	15:55	75分	フリートーク	グループに分かれて自由に話す 各グループに1名ピアサポーターを付ける
15:55	16:00	5分	閉会のあいさつ 沖縄県地域統括相談支援センター長 増田昌人	
16:00	16:30	30分	反省会（その場で）	①ピアサポーターへのアンケート ②「振り返りシート」を基に振り返り
16:15	16:30	15分	設営業者撤収作業	パーテーションの撤収・搬出

内容

【参加人数】

コンサート&お話 20~30名程度
サロンタイム 14名（ピアサポーター4名・
沖縄県地域統括相談支援センター相談員2名含む）

【スタッフ】

沖縄県地域統括相談支援センター センター長、 同事務員1名
琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務員1名

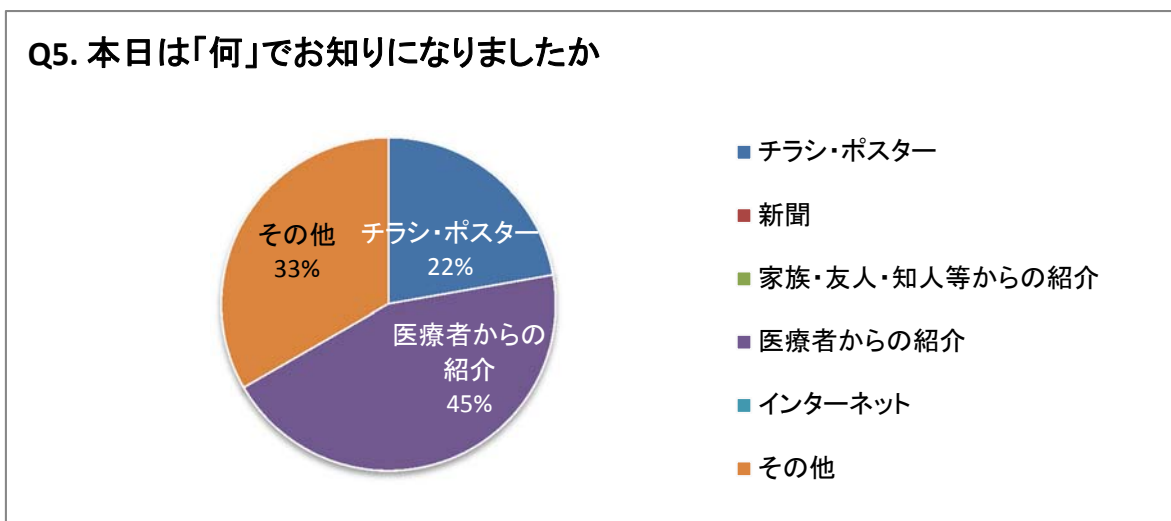
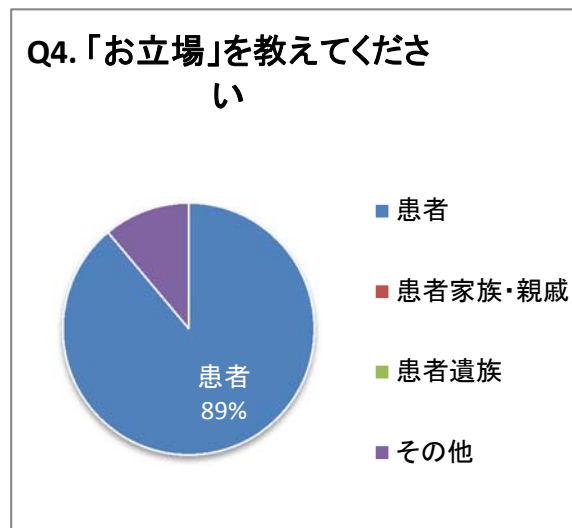
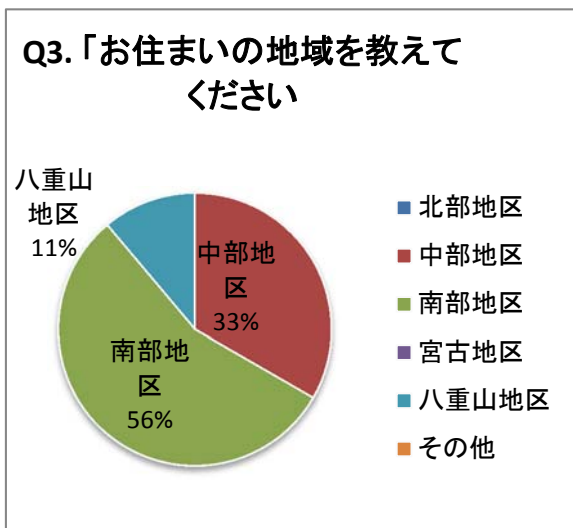
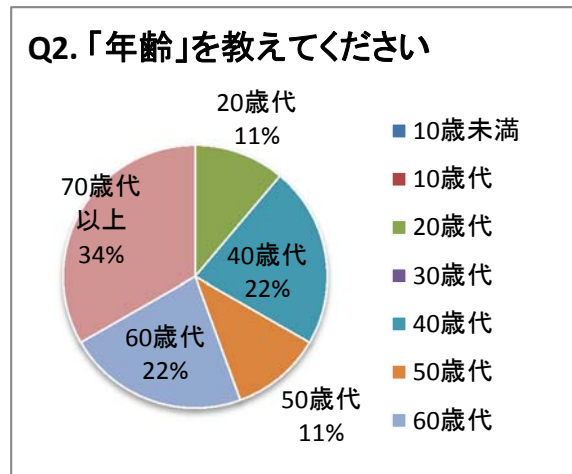
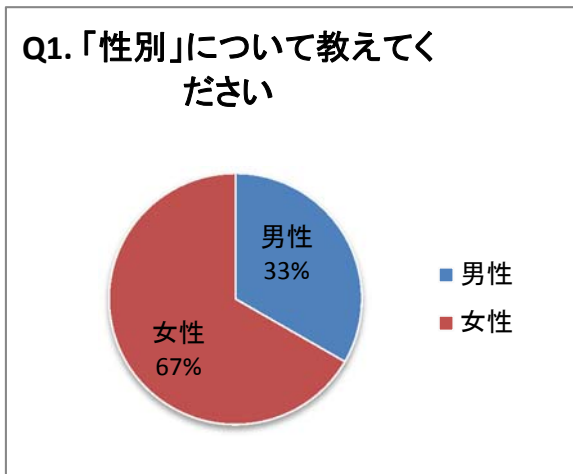
【振り返り】

- ・オープンスペースでの開催により受付を設置しなかったため、演奏の途中から着席した方に声掛けの必要がなく演奏の邪魔をすることがなかった。
- ・ミニコンサート&お話は、演奏・お話・演奏・・・といった形で進行し、がん体験だけでなくギターに関すること、演奏曲に関する事など、幅広い内容だったためがん患者以外の方も足を止めたり、着席するなどして聞き入っていた。
- ・ミニコンサート&お話の部分で来場者に感想や質問があるか投げかけたところ2点ほどの質問があり、内容がギタリストとして、がん患者としての両面であったことが良かった。
- ・サロンタイムになると想定通り、「語り合う」「情報がほしい」等の明確な目的意識を持った方が参加した。たまたま通りかかった琉大医学科学生の参加もあった。

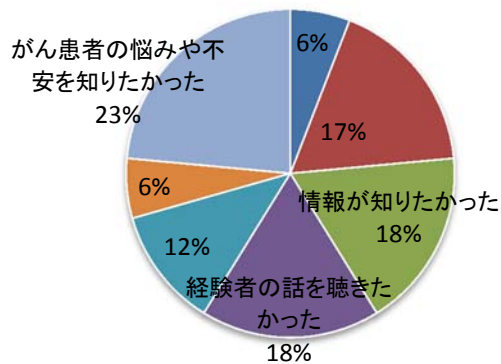
【反省点】

- ・案内チラシにはもっと「ペトロ・ショーケン」さんがピアサポーターであり、サロンにも参加することを明記した方が見る人に分かりやすかったのではないと思う。
- ・サロンタイムでは参加者の誘導やピアサポーターとの事前調整が不十分だったため、当初の目的であったがんとは関わりのない方に参加してもらうということがほぼ叶わなかった。
- ・全員でひとつのグループになってしまったために、ひとりが話す時間が少なくなってしまった。今後は小グループにピアサポーターをひとり以上配置するなどの対応を考える必要がある。
- ・ピアサポーターからは、ひとつの大きなグループでサロンを進行するならば、予め座長を決めておくべきとの指摘もあった。
- ・アンケートはミニコンサートを聴いて帰られた方にも記入して欲しかったが、案内しても気軽な感じがしないのか、なかなか記入してもらえず、顕在的及び潜在的なニーズの把握が難しい。内容のボリュームにも問題があるのか、また設置する場所も検討する必要がある。

アンケート集計結果（回答 9 名）

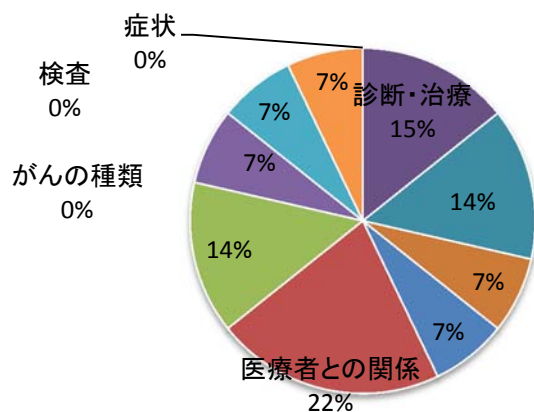


Q6. 「参加しようと思ったきっかけ」 について教えてください



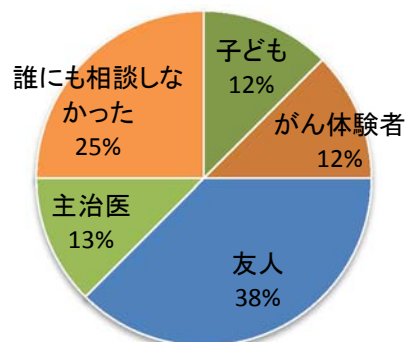
- 不安や悩みを誰かに聞いてほしかったから
- 同じ病気の人と話がしたかったから
- がんに関する情報が知りたかったから
- がん経験者の話を聴きたかったから
- がんに関心があったから
- たまたま通りかかったから
- がん患者が、どのような悩みや不安を抱えているのか知りたかったから

Q7. がんについて「知りたいこと」を教えてください



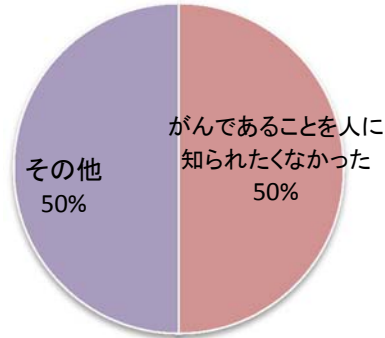
- がんの種類
- 検査
- 症状
- 診断・治療
- 副作用・後遺症
- 仕事
- 家族・周囲の人との関係
- 医療者との関係
- 経済的な支援制度
- 医療に関する相談窓口や支援制度
- 心の問題に関する相談窓口や支援制度
- その他

Q8. がんについて「誰に」相談しますか



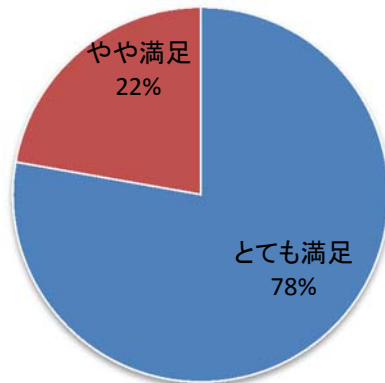
- 配偶者・パートナー
- 親
- 子ども
- 兄妹姉妹
- 職場の人
- がん体験者
- 友人
- 親戚
- 主治医
- 看護師
- ソーシャルワーカー
- 誰にも相談しなかった
- その他

**Q9. Q8でだれにも相談しなかった方
理由を教えてください**



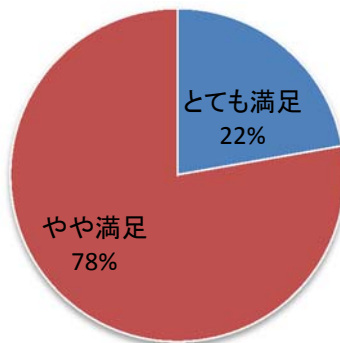
- 相談するほど困っていなかった
- 何を相談したらよいかわからなかった
- 相談できる相手がいなかった
- 相談する時間がなかった
- 相談する気力がなかった
- 相手の助言に期待できなかった
- 誰かに相談するという発想がなかった
- がんであることを人に知られたくなかった
- へたに相談すると不利益が生じると思った
- その他

Q10. 「ミニコンサート&お話」の内容はいかがでしたか



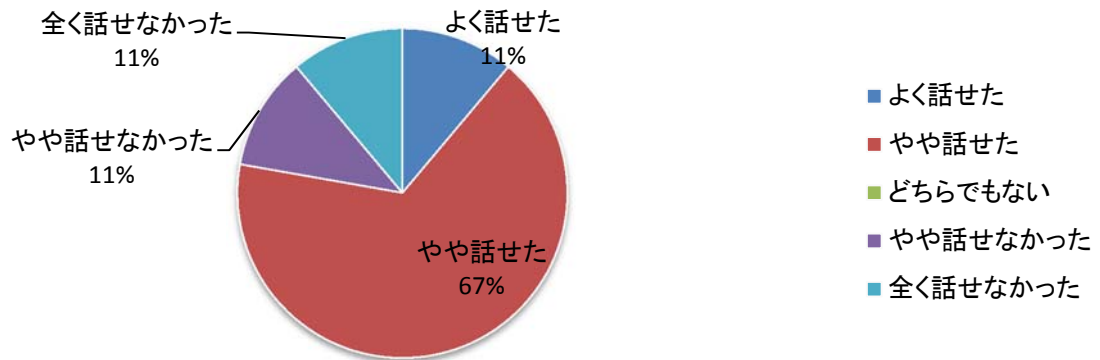
- とても満足
- やや満足
- どちらでもない
- やや不満
- とても不満

Q11. 「サロンタイム」の内容はいかがでしたか

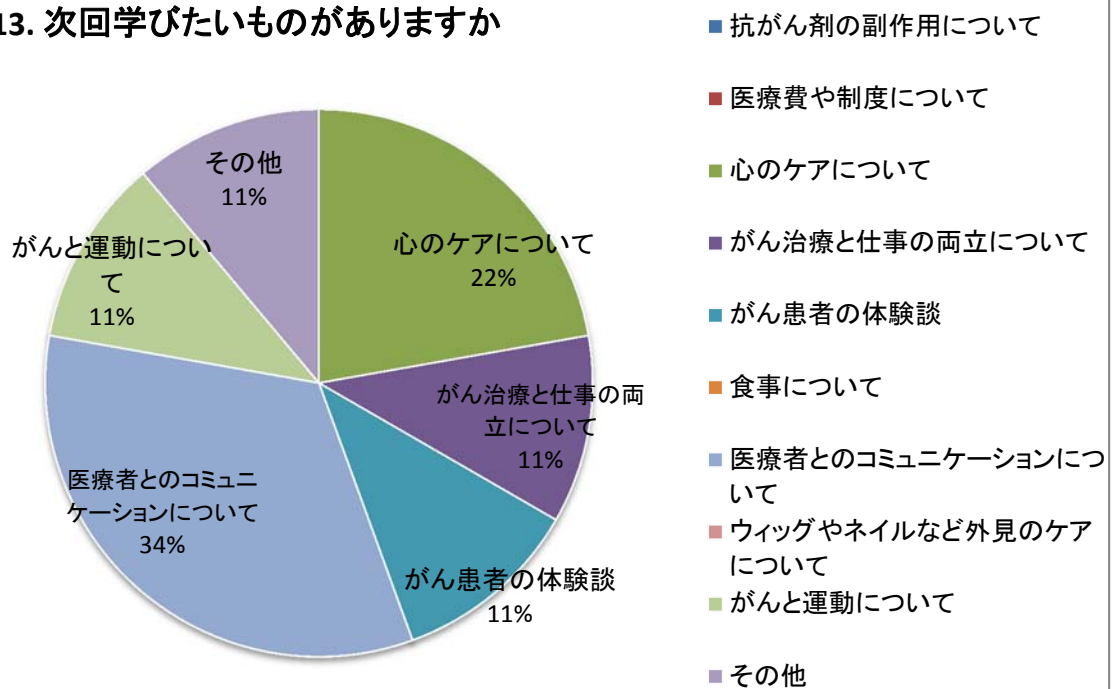


- とても満足
- やや満足
- どちらでもない
- やや不満
- とても不満

Q12. 「サロンタイム」では話したいことが話せましたか



Q13. 次回学びたいものがありますか



ミニコンサート&お話の様子



サロンの様子



ちょっと寄ってみませんか？

がんピア
サロンって
なあに？

がんピアサロンとは、がん患者さんやそのご家族ががんに関する情報を交換したり、これからの生活のこと、自分の病気についてなど、心の不安を語り共有し合う交流会です。

普段聞けないようなことも、同じがん患者同士だと語り合ったり「自分だけじゃない」と勇気づけられたり、分かち合えることがたくさんあります。

がんに関心のある方も、ぜひお気軽にお立ち寄りください。

Autumn 2015

第3回 がんピアサロン In ジュンク堂

主催
沖縄県地域統括相談支援センター

日時 2015年9月6日(日)
14:00~16:00

場所 ジュンク堂那覇店
地下1階フロア

〒900-0013 沖縄県那覇市牧志1丁目19-29

対象 がん患者さんやそのご家族(遺族)、
医療関係者、関心のある方。

参加費 無料・事前申込不要

14:10 ミニコンサート&お話
ペトロ・ショーケンさん

曲目：アルハンブラの思い出
禁じられた遊び
エストレリータ 他

14:40 サロンタイム

ペトロ・ショーケン
(大城松健)

プロフィール

ギタリスト S28年生まれ
がん体験者
オストメイト(オストミー協会沖縄県支部長)
がんピアサポーター(H24年度研修修了生)

*オストメイトとは・・・人口肛門や人口膀胱保有者のことです。

【お問合せ】

沖縄県地域統括相談支援センター
(琉球大学医学部附属病院3階)
〒903-0215 沖縄県西原町字上原207番地

TEL: 098-942-3407
FAX: 098-942-3408

EVENT information

第3回 がんピアサロンinジュンク堂

ちょっと寄ってみませんか？

がんピア
サロンって
なあに？

がんピアサロンとは、がん患者さんやそのご家族ががんに関する情報を交換したり、これからの生活のこと、自分の病気についてなど、心の不安を語り共有し合う交流会です。
参加しないようなことも、同じがん患者同士だと語り合えたり「自分だけじゃない」と勇気づけられたり、分ち合えることがたくさんあります。
がんに関心のある方も、ぜひお気軽にお立ち寄りください。

Autumn 2015

第3回 がんピアサロン in ジュンク堂

主催
沖縄県地域包括相談支援センター

日時 2015年9月6日(日)
14:00~16:00

場所 ジュンク堂那覇店
地下1階フロア
〒900-0013 沖縄県那覇市栄17丁目9-29

対象 がん患者さんやそのご家族(遠隔)、
医療関係者、関心のある方、
参加費 無料・事前申込不要

14:10 ミニコンサート&お話
ベトロ・ショーケンさん
曲目: アルハンブラの思い出
禁じられた遊び
エストレリータ 他

14:40 サロンタイム

ベトロ・ショーケン
(大城松健)

プロフィール
ギタリスト 528年生まれ
がん患者
オストメイム。(オストミー協会沖縄県支部長)
がんピアサポーター (04年度研修修了生)
*オストメイムとは…人口統計学・人口学に関連のあることです。

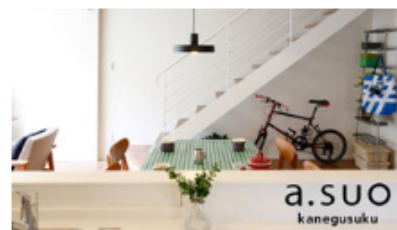
【お問合せ】
沖縄県地域包括相談支援センター
(琉球大学医学部附属病院3階)
〒903-0215 沖縄県那覇市上原207番地
TEL: 098-942-3407
FAX: 098-942-3408

がんピアサロンとは、がんに関する情報交換のための交流の場です。
今回は前2回とは少し趣向を変えオープンスペースにてギタリストのベトロ・
ショーケンさんによるコンサートとお話のあとサロンタイムに移ります。
現在がんと関わりのない方にも、自分ががんに罹患した際の支援体制やがん患者さん
の活動を知ってもらい、がんを身近に考えるきっかけになってほしいです。
またサロンとしての情報交換、悩みや不安を言葉や絵画を交わしたがんピアサ
ポーターがお聞きします。
ちょっと寄ってみませんか？
※がんに関する医療相談ではありません。

開催日：2015年9月6日（日）14：00～16：00

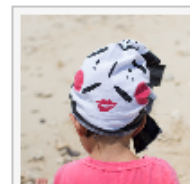
場所：ジュンク堂那覇店

<http://www.gansoudan-okinawa.jp>



a.sUO
kanegusuku

イベント告知無料
あなたの企画した小さなイベント、
カレンドで告知しませんか。
event@calend-okinawa.com



「ちよんだらー手ぬぐい」できました@kitoco.



iPhone 6 ケース【数量限定】@城紅型染工房



ホテルガラスと真珠のアクセ @Daisyあしびな一店



“プレミアむん”キャンペーンページ @ちゅらとく

Have a fun job!



▶ ディ・スペックスタッフ募集



▶ CALEND-OKINAWA契約ライター募集
経験不問。トレーニング期間終了時には取材・撮影・原稿作成全てお願ひできるかた！



▶ 本部町 caféハコニワ スタッフ募集



▶ カレー専門店「スパイスカレーゴカルナ」では、一緒にお店を盛り上げてくれるスタッフを募集しています！



▶ 新しいタイプの不動産さん、ティーチプラスの正社員募集です。



▶ module cafe スタッフ募集

第3回 八重山医療圏がん医療連携協議会 議事要旨

日 時：平成27年10月2日（金） 14時～16時

場 所：沖縄県立八重山病院 2階 第一会議室

テーマ：八重山医療圏におけるがん医療をみんなで一緒に考えよう

出席者：沖縄県立八重山病院 病院長 依光 たみ枝
沖縄県立八重山病院 看護部長 上盛 厚子
沖縄県立八重山病院 地域連携室 副看護師長 平良 芳子
沖縄県立八重山病院 地域連携室 師長 宮良 久美江
沖縄県立八重山病院 化学療法認定看護師 内田 千穂
沖縄県立八重山病院 内科医師 瀬尾 卓司
沖縄県立八重山病院 事務部長 吉田 昌敬
沖縄県立八重山病院 総務課長 平 美千子

石垣市市民保健部 健康福祉センター 所長 前底 正之

石垣市市民保健部 健康福祉センター 保健師 宮良 由美子

八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 会長 新城 純
八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 副会長 田盛 亜紀子
八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 監査 新垣 フミ
八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 会員 新城 悦子
八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 会員 宮国 惠慈
八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 会員 底原 ちえみ
八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 会員 大仲 惠美子

琉球大学医学部附属病院がんセンター センター長 増田 昌人

陪席者：琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務補佐員 又吉 未央

協議会の様子：



1. 開会のご挨拶 <5分>

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人
配布資料を確認の後、以降は司会増田より議事進行が行なわれた。

2. 出席者の紹介 <15分>

出席者各自より自己紹介があった。

3. 報告事項

(1) 第2回八重山医療圏がん医療連携協議会議事要旨報告<5分>【資料1】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人
増田より前回の議事要旨が報告された。

(2) 沖縄県がん対策推進計画中間評価に関するタウンミーティング実施報告 <5分>【資料2】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人
8月8日(土)浦添市てだこホールで実施の第16回タウンミーティングについて報告があった。参加者は40名で、一般住民20名、医療関係者11名、政党・自治体関係者6名、マスコミ関係者3名の参加があった。プログラムの第1部では、大阪よりお招きした前厚生労働省がん対策推進協議会委員である濱本満紀氏による講演、続く第2部では出席者5名によるミニ講演会、さらに帝京大学腫瘍内科の渡邊先生、那覇市立病院がん診療連携室の宮里先生にパネリストとして加わっていただき総合討論が行われた。会場から寄せられた多くの意見を含め、今後沖縄県がん対策推進計画の中間評価を実施するとの説明がされた。

(3) 第2次沖縄県がん対策推進計画中間評価における患者・家族に対する調査、医療者に対する調査について<5分>

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人
10月実施予定の医療関係者および患者を対象とした調査について、協力願いの説明があった。患者は院内がん登録のデータから2013年に発症した患者約70名前後に対し、アンケート調査を行う見込み。全体として約2,000名を対象に調査実施の予定であると報告がされた。医療関係者は医師、看護師、薬剤師、医療SWなどを含むおおよそ100名が調査対象となる見込み。具体的な手順等については、現在沖縄県と調整中であるとの報告があった。

(4) その他

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人
沖縄県地域統括相談支援センターおよびがん患者等支援事業の主催共催によるイベント「先進地に学ぶがんピアサポート」「模擬相談演習 がんピアサポーターフォローアップ研修」「がん患者支援情報共有会」開催の紹介があった。

4. 協議事項・要望事項

(1) がんと共に他の疾患を抱えた患者のための医療連携について<15分>【資料3】

(2) 当協議会への八重山地区医師会医師の参加要望について<15分>【資料4】

・石垣市市民保健部健康福祉センター 前底 正之

がんと共に他の疾患を抱えた患者のための医療連携について、患者・かかりつけ医・主治医の三者が、必要に応じて意見交換できる場が必要ではないか。同協議会に八重山地区医師会の医師を参加させていただきたい。

<状況>

前底所長より要望に至った背景などが語られた。いまや国民病といわれている癌だが、患者のなかには癌とともに複数の疾患に苦しんでいる方も多く、高齢化によりそのような患者は増加することが予想される。それらの疾患を治療するために複数の医療機関に通院又は入院することを余儀なくされているが、離島に住む患者の負担軽減を図るためには、かかりつけ医と主治医（専門医）との緊密な医療連携は欠かせない。本協議会においても、八重山地区医師会・県立八重山病院・琉球大学医学部附属病院等の一次・二次・三次医療機関が連携して、かかりつけ医と主治医は今後どうあるべきか、どう対応すべきかについて協議する必要があるとの意見を述べた。これを受け依光病院長より、地区医師会の先生方は、平日は診療があり、時間調整の問題から本協議会に参加するのは困難ではないか。参加していただくには協議会の開催時間を夜間に変更するなどの調整が必要になるのではないかと意見した。患者会からは、夜間の場合いまのように全員で参加するのは難しくなる。代表者のみの参加を検討したいという意見があった。また別の患者会員は、患者の立場からがんに限らず開業医との医療連携は図ってほしい。協議会の開催時間については、これまで通り昼間が望ましいが、夜間になっても構わないので地区医師会の先生方に参加してほしいと要望した。

<協議結果>

- ・本協議会での医療連携および八重山地区医師会医師の協議会参加を希望する。【協議会】
- ・開催時間や人選などの問題については、事務局預かりとし調整をはかる。【琉大病院】

(3) 離島家族（付添い）の宿泊における負担軽減について<15分>【資料5】

・八重山のがん患者を支援する「やいまゆんたく会」 平良 秀之

付き添いをする患者家族が低額で宿泊できる宿泊施設を、病院周辺に設置してほしい。

<状況>

患者会の平良氏が欠席のため、新城会長より代理報告があった。八重山では放射線治療を受けることができないため、治療は島外となる。石垣市ではがん患者や難病患者等の経済的負担の軽減を目的に、予算の範囲内で航空運賃の一部（往復10,000円又は実費）を一人年間2回までとし助成を行っている。しかし放射線治療は時間を要する関係上、身内が付き添うケースも多く滞在期間が長いほど宿泊や病院までの移動費負担も大きいことから、病院近くに低額で宿泊できる施設を望む。

既存建物を借り上げる等、低予算で実現できないだろうかとの意見が出た。石垣市から渡航費助成の現状が述べられ、必要であれば回数を増やすが、八重山病院で可能な治療でも島外に出るケースが見受けられるため、対象を絞っているとの報告があった。増田より、本件については継続した検討が必要であり、その際、渡航費と宿泊費を分けずに議論をしたほうがよいのではないかと提案があった。前底所長からは、沖縄県がん対策推進条例のなかで、離島地域からの渡航費低減や遠隔地からの治療に伴う経済的負担の軽減をうたっているが実現されていない。石垣市としては、宮古・八重山5市町村長で構成する「美ぎ島美しゃ市町村会」として県に対応を要請をしているとの報告があった。

<協議結果>

- ・本件は継続して検討が必要であり、渡航費と宿泊費と分けない議論が望ましい。【琉大病院】
- ・がん対策推進条例を以て県に対応することが望ましい。実現困難な場合、市町村対応の検討も必要になる。【石垣市】
- ・がん対策推進条例を根拠とし、八重山医療圏、宮古医療圏の患者会が合同で県に対し要望してはどうか。【琉大病院⇒患者会】

(4) 新県立八重山病院内「がんサロン」開設場所および無償提供について<15分>【資料6】

・八重山のがん患者を支援する「やいまゆんたく会」 副会長 田盛 亜紀子
新病院での「がんサロン」新規開設のために、開催場所の無償提供をしてほしい。

<状況>

患者会の田盛副会長から要望に至った背景などが語られた。八重山のがん患者を支援することを目的に発足された患者会「やいまゆんたく会」は、がんに関する啓発活動、予防活動、相談活動等を活動の一環としているが、本島で行っている「がんサロン」の開設が出来ずにいる。昨年4名の会員がピアサポーターの養成講座を受講した。またスキルアップを目指し、10月10日に本島で開催の「平成27年度模擬相談演習 ピアサポーターフォローアップ研修」も受講予定である。患者会の活動をする中で、ピアサポーターが活動する「がんサロン」の必要性を感じながらも、サロンを新規開設するための場所確保等が大きな課題であり、また十数名という会員の力ではサロンを開設する資金の工面が困難である。そこでぜひ本市にも「がんサロン」の新規開設ができるよう強力なバックアップを頂きたく、新病院の中に開設できる場所の無償提供をしていただければというお願いしたいと意見を述べた。依光病院長から、新病院の設計に「がんサロン」実施可能な場所を確保しているとの報告があり、患者会からは感謝の声が聞かれた。次いで吉田事務部長から、地域連携室付近に共有スペースを設けたこと、関係者が連携しつつアイデアを出しながら有効活用してほしいことなど詳細が伝えられた。上盛看護部長からは、院内にがん相談支援センター（地域連携室）があり、将来的にがんサロンを実施する場合、患者のニーズに応じて地域連携室が対応するか、がんサロンが対応するか、相談先が異なってくる。運営にあたっては事前の連絡がほしいとの意見があった。増田からはピアサポートの重要性とその活動、サポーターの人材育成について説明があった。

< 協議結果 >

- ・新病院に「がんサロン（仮称）」実施可能な共有スペースを設けた。【八重山病院】
- ・「がんサロン（仮称）」の運営は病院と連携を取りながら進めてほしい。【八重山病院】
- ・がんピアサポーターに法的資格はない。【琉大病院】
- ・がんピアサポーター講座は公費で開催しており、受講後ピアサポート活動に応じることができる人のみを対象としたものである。相談を通じ、何人患者が救われたかが最終アウトカムであり、活動に結び付かない受講は想定していない。【琉大病院】

（５）病院内で患者会が定例会等で活動できる場所の無償提供について<15分>【資料7】

・八重山のがん患者を支援する「やいまゆんたく会」 黒島 富士子
病院内で患者会が定例会等で活動できる場所を無償で提供してほしい。

< 状況 >

患者会の黒島氏が欠席のため、田盛副会長より代理報告があった。定例会の活動場所については以前も要望として取り上げ、これまでも健康福祉センターと病院に無償提供をお願いしてきた。定例会は第3土曜日に開催しており、平日への日程変更は難しい。土日はセキュリティの問題が生じることは承知しているが、患者会員には病院関係者もあり、再考をしていただきたいとの意見を述べた。これを受け平総務課長から、病院の会議室は医療者が使う場所であり、研修会などで休日も埋まっていることが多い。集会スペース等に要望するのが現実的なのではないかとの意見が出た。また吉田事務部長からは、当院は県の建物であり公的機関なので、院外の方に定期的に場所を貸し出すことは難しい。もちろん地域連携は重要であり、病院・患者会双方が連携を取りながら取り組む課題があれば、状況に応じて会議室を使用することも考えられる。患者会の要望を全面的に否定しているわけではないことを理解していただきたいとの説明があった。前底所長からは、市の健康福祉センターは土日の利用も可能だが、前回返答のとおり、公平性の観点から無料利用は難しいとの意見があった。

< 協議結果 >

- ・会議室は医療者が使用する目的で設けた場所であり、貸し出すことは難しい。【八重山病院】
- ・健康福祉センターは公平性の観点から無料利用は難しい。【石垣市】

（６）12/5（土）12/6（日）「がんピアキャラバン」協力依頼について<15分>【資料8】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター

12月に石垣島で開催する医療者相談会・出張ピアサポート「がんピアキャラバン」について、八重山病院と患者会に相談員およびピアサポーターとして参加していただきたいとの要望を伝えた。

< 協議結果 >

- ・医療者相談員派遣の要請については、後日改めて文書で依頼する。【琉大病院】

(7) その他

増田より、今回から吉田事務部長、平総務課長が参加されていることが紹介され、第2回協議会でも再度要望のあった八重山病院に勤務する先生方のPR活動について、総務課主体でお願いできないかとの意見があった。これに対し吉田事務部長は、診療部門および勤務医紹介のニーズは把握しており、まだまだ周知広報が不足していると認識している。今後、実現に向けて努力していきたいと説明があった。新城会長からは、近頃は地元新聞への掲載など以前と比較し情報提供が多くなり、“わたしたちの八重山病院”という意識が持てるようになったとの発言も飛び出し、場内から拍手が起こった。これについては依光病院長から、以前から広報の重要性を感じ開業医への周知は行っていたが、第2回協議会での再要望が新聞掲載のきっかけになったと報告された。

5. 閉会のご挨拶 <5分>

・沖縄県立八重山病院 病院長 依光 たみ枝先生

第3回目となる本協議会でも活発な意見や要望が出されたことに感謝を伝えるとともに、新病院に対する患者会の皆さんの思いを直接聞くことができ大変参考になった。現在、八重山病院では、次年度の地域がん診療病院指定に向けて一丸となって取り組んでおり、予算が増えればさらに良いサポートができるのではないかと期待している。今後は地区医師会の先生方ともさらなる連携を推進しながら、皆さんとともに八重山医療圏のがん診療を進めていきたいとの挨拶があった。

第4回 宮古医療圏がん医療連携協議会 議事要旨

日 時：平成27年9月10日（木） 14時～16時

場 所：沖縄県立宮古病院 3階 講堂3

テーマ：宮古医療圏におけるがん医療をみんなで一緒に考えよう

出席者：沖縄県立宮古病院 病院長 上原 哲夫
沖縄県立宮古病院 外科部長 松村 敏信
沖縄県立宮古病院 副看護部長 小禄 範子
沖縄県立宮古病院 看護師長 金城 春美
沖縄県立宮古病院 がん性疼痛看護認定看護師 青沼 裕美子
沖縄県立宮古病院 地域連携室室長 佐渡山 英子
沖縄県立宮古病院 地域連携室 相談員 古謝 亜紀

宮古福祉保健所 健康推進班 保健師 銘苺 美奈子

離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代
離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 副会長 川満 敏次
離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会計 小路 千恵子
離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 記録 砂川 洋子
離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 記録 佐々木 まりこ
宮古島市議会議員 亀濱 玲子
まんま宮古 天久 洋子
日本オストミー協会 宮古支部 支部長 下地 一正

琉球大学医学部附属病院がんセンター センター長 増田 昌人

陪席者：琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務補佐員 又吉 未央

協議会の様子：



1. 開会のご挨拶 <5分>

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人
配布資料を確認の後、以降は司会増田より議事進行が行なわれた。

2. 出席者の紹介 <15分>

出席者各自より自己紹介があった。

3. 報告事項

(1) 第3回宮古医療圏がん医療連携協議会議事要旨報告 <5分> 【資料1】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人
増田より前回の議事要旨が報告された。

(2) 沖縄県がん対策推進計画中間評価に関するタウンミーティング実施報告 <5分> 【資料2】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人
8月8日(土)浦添市てだこホールで実施の第16回タウンミーティングについて報告があった。参加者は40名で、一般住民20名、医療関係者11名、政党・自治体関係者6名、マスコミ関係者3名の参加があった。プログラムの第1部では、大阪よりお招きした前厚生労働省がん対策推進協議会委員である濱本満紀氏による講演、続く第2部では出席者5名によるミニ講演会、さらに帝京大学腫瘍内科の渡邊先生、那覇市立病院がん診療連携室の宮里先生にパネリストとして加わっていただき総合討論が行われた。会場から寄せられた多くの意見を含め、今後沖縄県がん対策推進計画の中間評価を実施するとの説明がされた。

(3) 第2次沖縄県がん対策推進計画中間評価における患者・家族に対する調査、医療者に対する調査について<5分>

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人
10月実施予定の医療関係者および患者を対象とした調査について、協力願いの説明があった。調査対象となる医療関係者は医師、看護師、薬剤師、医療SWなどを含むおおよそ100名、患者は院内がん登録のデータから2013年に発症した患者100数十名に対し、アンケート調査を行う見込み。具体的な手順等については沖縄県と調整中だが、県内20施設、2500名を対象に調査実施の予定であると報告がされた。

(4) 県立宮古病院オープンホスピタルでの患者ブース設置について<5分> 【資料3】

・沖縄県立宮古病院 副看護部長 小禄 範子
・離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代
前回の協議会で患者会の参加が決定したオープンホスピタル(宮古病院にて7月開催)について、宮古病院、患者会よりそれぞれ実施報告があった。小禄副看護部長からは、参加住民は約150名で家族連れも多く盛況に終わった。患者会用に設けた2つのブースはポスター展示のみだったため、担当者が立ち会い来訪者への説明があるとより効果的だったのでは、と感想が述べられた。真栄里

会長は、宮古のこれからの医療を守り育てる観点から、オープンホスピタルは重要な取り組みであるとの認識を示し、今回は無人展示となってしまったが、今回は立場の違う多くの人を巻き込みながら患者会も含めた地域全体でイベントを盛り上げたいと意気込みを語った。

(5) 島コラボのがんシリーズ DVD 貸出について <5分> 【資料4】

・宮古島市生活環境部 健康増進課 補佐兼係長 仲宗根 美佐子

仲宗根補佐兼係長が欠席のため、増田から代理報告があった。前回の協議会で、島コラボで撮影したがんシリーズについてDVD貸出の要望があったが、市情報政策課に確認したところ保存されているがんシリーズは「胆のう・肝臓がんについて」1枚のみであった。よって現状では貸出の公開に至っていない。

(6) みんなで花を咲かせるプロジェクトについて <5分> 【資料5】

・離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代

前回の協議会で、上原病院長より快諾を得た病院入口に花を植える活動について、真栄里会長より進捗報告があった。8月30日に患者会9名で1時間ほど作業し病院敷地内入口付近に花の球根を植え、宮古島市のみどり推進課、宮古森林組合にも苗や花の咲く木を提供してもらえないか交渉をしている。実業高校との協働作業については、高校生とスケジュールが合う2学期以降に計画をしていきたいとした。報告を受け宮古病院からは、花を咲かせるプロジェクトで院内の緑化が進むことで、喫煙や吸殻のポイ捨てが減るのではないかといった意見が出され、禁煙できる環境づくりへつながる取り組みに引き続き期待する声が寄せられた。

(7) その他

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

10月9日(金)琉球大学医学部附属病院で開催される医療者向け勉強会「先進地に学ぶがんピアサポート」について、県立宮古病院から1名パネリストとして参加していただきたいとの要望を伝えた。

4. 協議事項・要望事項

(1) 県立宮古病院へ「血液専門外来」の設置と専門医師の配置について <30分> 【資料6】

・離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代

・宮古島市議会議員 亀濱 玲子

宮古病院は血液専門医が不在のため、疾患の患者は本島での治療を余儀なくされており、精神的、身体的、経済的な負担を抱えている。こうした現状から本年8月にがん患者会5団体の連名で提出した「血液専門外来開設」の要望について、改めて当協議会で専門外来設置の常設化や宮古病院の負担軽減策について協議したい。

<状況>

本件について上原病院長より報告があり、血液専門外来開設の要望を受け、関連施設である中部病

院に島内の実情を伝え話し合いをした結果、10月から専門医を派遣することで内諾を得られた。ただし沖縄本島でも血液専門医は少ないため、応援外来の診療回数については、症例数を見ながら都度調整をしていきたいとの説明があった。実施開始日については人員配置を考慮し、10月23日（金）午後を予定している。8月に要望を受け10月に実施という極めて早い対応に対し、患者会ならびに増田から、上原病院長をはじめ宮古病院に感謝を伝える場面もあった。

<協議結果>

- ・血液専門外来について中部病院の派遣医師による巡回診療を10月から実施する。【宮古病院】
- ・将来的には血液専門外来が常設化するよう希望する。【患者会】

（2）「リレー・フォー・ライフ 2015 沖縄うらそえ」への共同参加について<5分>【資料7】

・離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代

宮古島での「リレー・フォー・ライフ」開催実現に向け、11月に沖縄本島で開催される「リレー・フォー・ライフ 2015 沖縄うらそえ」に宮古島の医療者、行政、保健所、患者会が共同で参加したい。

<状況>

真栄里会長より「リレー・フォー・ライフ 2015 沖縄うらそえ」への参加募集があった。患者会からはすでに3～4名が参加を予定している。来年以降、同イベントを宮古島でも開催したいが、患者だけで実現するのは難しく、行政や医療者等の協力が不可欠である。そこでまずは宮古島での開催実現に向け、関係者が共同で下見を兼ねて参加してほしい。そして宮古島で同イベントを開催し、がんに対する意識を高める場を設けたいとした。当イベントの実行委員のひとりである上原病院長からはイベント概要について説明があり、がん患者への寄付行為や24時間リレーウォーク、ルミナリエなど様々な催しについて紹介があった。宮古病院からの「24時間の参加になるか」との質問には増田が応じ、30分だけでも構わず、それぞれの都合に合わせて参加して良いのではないかとした。さらに「リレー・フォー・ライフ」は地域住民や異なる職種の人が直接がん患者の声を聴ける場であり、業務でがんに関わっている医療職や行政職にとっては、自身の仕事の影響力などを肌で感じる機会であるとした上で、ぜひ保健所や行政など周囲の人に声をかけて参加してほしいと呼びかけた。

<協議結果>

- ・上原病院長、患者会3～4名が参加予定。【宮古病院】【患者会】
- ・行政を含むさらに多くのがん関係者からの参加を促した。【患者会】

（3）いのちの授業への協力について<5分>【資料8】

・離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代

9月26日（土）に開催される「いのちの授業（主催：沖縄がん心のケア研究会・沖縄県がん患者会連合会）」へ患者以外の多くの人に参加してもらいたい。また開催にあたり、本協議会で会場準備

や広報活動に協力しイベントを盛り上げたい。

<状況>

真栄里会長より「いのちの授業」の紹介とイベント協力への依頼があった。沖縄がん心のケア研究会の先生方やがん患者の生の声など、とても良いお話しが無料で聞けるイベントだが、これまで医療者の参加は多くないとして積極的な参加を呼びかけた。またイベントへの協力について、患者だけが動くのではなく、せっかく立ち上がった本協議会全体で支援をして、盛り上げたいとの提案があった。宮古病院と増田からは「いのちの授業」という名称から学生向けのイベント、という印象を受けたという発言があった。これを受け患者会は、参加対象はあらゆる年齢や職種の人であり、なかでもできるだけ多くの医療者が講演を聞いて、それぞれの立場で仕事などに生かしてほしい、とした。

<協議結果>

- ・本協議会をはじめ医療職からの多くの参加を促した。【患者会】
- ・イベント協力への具体的な支援については協議されなかった。

(4) 安価で宿泊できる「ファミリーハウス」(仮) 設置について <10分> 【資料9】

- ・離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代
- ・宮古島市議会議員 亀濱 玲子

島外でがん治療を受ける患者と家族の経済負担軽減を目的に、県立宮古病院・県立八重山病院周辺と、沖縄本島のがん診療連携拠点病院周辺に、それぞれ安価な宿泊施設を設置してほしい。

<状況>

まず真栄里会長より、要望に至った背景などが語られた。島外でがん治療を行う場合、家族は看病のためにウィークリーマンション等を借りており、経済的負担は計り知れない。ホテル旅館生活衛生同業組合による宿泊支援制度は放射線治療に限定され、割引を適用しても宿泊費は高額でなお負担が大きいことから、安価で宿泊できる施設(以下、ファミリーハウス)設置が望まれるとした。次いで亀濱市議会議員も、患者本人や家族の経済負担はまだまだ大きいと述べ、沖縄は島しょ県であり、島々に暮らす人々が安心して治療を受けられる環境を整えることが必要であるとし、本件は沖縄県に力を入れて取り組んでほしい問題であり、あらゆるところから声が出ることで形になるのではないかと期待を寄せた。沖縄県および宮古島市の欠席により当事者同士の議論は見送られたが、上原病院長より、宮古・八重山5市町村長で構成する「美ぎ島美しゃ市町村会」が県に要請した項目に、『県立病院・宮古病院・八重山病院宿泊施設整備』が含まれていると紹介があった。増田からは離島にファミリーハウスを設置した場合、年間の利用患者数が数十名だと費用対効果の面から実現は難しいのではないかという意見があった。松村外科部長からは、市や県が施設を作ると必ず民業圧迫という意見が出るため、民間が施設を作る形でない継続できないのではないかという意見があった。これに続き増田からも、民業圧迫と施設管理の問題から頓挫する。ただ困っている患者家族がいるのは事実であり、理想は理想として、実現可能な方法から模索する必要があるのではな

いか。渡航費助成の金額増や回数の増、制度に宿泊補助を加える、基金を活用するなど方法はひとつではない。他の疾病の患者団体と連携して県に要請するのも効果的ではないか。いずれにしてもファミリーハウス設置には、継続的な働き掛けが必要であるとの意見が出た。これを受けて真栄里会長は、いまずぐ実現できるとは思っていないが、みんなが気に留めて、どんな方法がいいのか模索してほしいと訴えた。

<協議結果>

- ・ファミリーハウス設置については今後も継続協議する。今後は保健所にも協議の場に加わっていただき議論を深めたい。【協議会⇒保健所】
- ・県立宮古病院周辺への施設設置は、年間の宿泊患者数が少ない場合、費用対効果の面から難しいのではないかと。【琉大病院】
- ・最終目標はファミリーハウス配置だが、第一ステップとして渡航費助成の制度を拡大し宿泊補助を加えるなど現実的な策を検討してはどうか。【琉大病院⇒沖縄県・宮古島市】
- ・宮古医療圏のがん患者会や他の疾病患者団体と連携し県に要請してはどうか。【琉大病院⇒患者会】
- ・地域医療再生基金の活用も検討の余地はあるのではないかと。【琉大病院⇒協議会】
- ・アパート借り上げには管理の問題が生じるが、問題をクリアするために市から委託を受けて患者会が施設管理人となったケースもある。好事例を探してみてもどうか。【琉大病院⇒患者会】

(5) オストミー患者の情報提供について <10分> 【資料10】

・日本オストミー協会 宮古支部 支部長 下地 一正
同じ境遇の患者同士が交流をはかるために、宮古医療圏のオストミー患者の連絡先を教えてください。

<状況>

下地宮古支部長より要望に至った背景などが語られた。ストーマを装着したあと7年間、誰にも相談することなくひとりで悩みを抱えていた。しかしある時、患者会の存在を知り、同じ境遇の人や関係者たちとの出会いを経て、いまの自分がいる。昨年まで宮古島市で実施していた装具に関する講義を受講した16名以上、対象とする人数が増えていない。過去に2年間ほど宮古島市役所の福祉課にチラシを置くなどの活動もしたが、効果がなかった。経験者の立場からオストミー患者の役に立ちたいので、連絡先を教えてください。要望に対し松村外科部長は、当院の患者数は把握しているが院外の患者数はわからない。当然、病院としては個人情報保護の観点から、患者の連絡先を開示することはできない。しかし患者会のポスターやチラシなどを院内に掲示しておき、目にとまった患者本人から連絡してもらうのは可能ではないか。そういう形でないとも要望に応えることは難しいと意見があった。これに対し患者会は、先生方からオストミー患者への声掛けをお願いしたいと協力を要請し、さっそく持参したパンフレットを配る場面も見られた。宮古病院からは、悩みを抱える患者のために、ぜひゆんたく会をやってほしいとの意見があった。

<協議結果>

- ・患者会がパンフレット等を制作し、病院から患者さんに案内していただく。【患者会】【宮古病院】

- ・ ストーマ窓口を設けており、認定看護師が皮膚トラブルなどの相談に応じることができる。まずは地域連携室に電話連絡してほしい。【宮古病院】
- ・ ゆんたく会をやってほしい。悩んでいる患者さんに案内ができる。【宮古病院⇒患者会】
- ・ 市町村の協力については好事例を見つけ日本オストミー協会全体で情報共有してみてもは。好事例があれば行政に働きかけやすいのではないかと。【琉大病院⇒患者会】

(6) 緩和ケア病棟の設立提案について <10分> 【資料11】

・ 離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代
沖縄本島には緩和ケア病棟があるが、宮古島にはない。本島の緩和ケア病棟に入院するのは、経済的負担に加え、最後のときを家族や友人と離れて過ごさなければならない。宮古島に緩和病棟を作ってほしい。

<状況>

時間の都合上、要望書を読み上げるにとどまった。上原病院長からは、一朝一夕に議論できる問題ではなく、疼痛緩和や精神ケアの充実にもよるが、今後緩和ケアは病棟ではなく家庭での看取りが中心になるのではないかと意見した。また小禄副看護部長からも、地域医療構想は在宅医療の方向での動きを見せており、宮古島市や保健所と連携を取って社会資源を使いながら、在宅医療に向いていくのではないかと意見が出た。

<協議結果>

- ・ 閉会の時間が迫ったため、詳細は次回協議会に持ち越しとなった。

5. 閉会のご挨拶 <5分>

・ 沖縄県立宮古病院 病院長 上原 哲夫先生
患者会による植栽活動「花を咲かせるプロジェクト」に対し、改めて感謝の言葉が述べられた。同じく療養環境を整える観点とがん予防の面から、当院敷地内の全面禁煙実現をはかりたい。当件を含む様々な課題について今後も皆さんの知恵を借りながら問題解決をしていきたい、と締め挨拶がされた。